

P300 遅延の遅延は、成人の異常な注意変数テスト(TOVA)と相関し、臨床環境での早期の認知機能低下を予測します。

[Braverman ER](#)¹、[陳 TJ](#)、[Schoolfield J](#)、[マルティネス・ポンス M](#)、[Arcuri V](#)、[Varshavskiy M](#)、[ゴードン CA](#)、[Mengucci J](#)、[ブルーム SH](#)、[Meshkin B](#)、[ダウズ BW](#)、[Blum の K](#)。

著者情報

1

PATH Research Foundation、ニューヨーク、ニューヨーク、米国。

概要

P300 遅延の遅延は、ミニメンタルステータス試験や、場合によってはウェクスラーメモリスケール(WMS-III)よりも認知症を特定します。この研究の目的は、客観的変数テスト(TOVA)の結果が40歳以上の電気生理学的テスト-P300 潜伏期の患者の所見と相関するかどうかを判断することでした。成人の注意欠陥障害は、記憶機能障害または認知症の重要な罹患前マーカーである可能性があります。男性では、P300 潜伏期および年齢調整 P300 潜伏期の平均は、注意のために正常(TOVA(3)0)に分類された患者よりもSD-BL(有意に逸脱または境界線:TOVA <-1.0)に分類された患者で有意に大きかった失敗(つまり、省略[P <.010]およびコミッション[P <.005])が、応答時間または変動のためではありません。を持つ男性> 2 SD-BL クォーターは、0 SD-BL クォーター(P <.020)および1 SD-BL クォーター(P <.005)の男性と比較して、P300 潜伏期および年齢調整 P300 潜伏期を大幅に遅らせました。女性では、応答時間(P <.001)および変動性(P <.010)ではなく、SD-BLとしてグループ化されたグループのP300 レイテンシおよび年齢調整 P300 レイテンシの平均が大幅に遅れましたが、省略または手数料。SD-BL クォーターが2つ以上の女性は、SD-BL クォーターが0(P <.005)およびSD-BL クォーターが1つ(P <.010)であった女性と比較して、P300 レイテンシおよび年齢調整 P300 レイテンシが大幅に遅れました。結果は、TOVA 異常が遅延 P300 および注意障害の指標である可能性を示唆しています。最近の研究では、TOVA の異常と早期認知症のWMSスコアの低下が相関しています。